

商工会議所 L O B O (早期景気観測)

- - 平成 1 6 年 7 月調査結果 - -

(平成 1 6 年 8 月 2 日)

調査期間：平成 1 6 年 7 月 2 0 日 ~ 2 6 日

調査対象：全国の 4 0 1 商工会議所が 2 5 7 4 業種組合等にヒアリング
(内訳) 建設業 3 8 0 製造業 6 2 1 卸売業 2 3 0
小売業 7 3 7 サービス業 6 0 6

調査項目：今月の売上・採算・業況等についての状況 (D I 値を集計)
及び、業界として当面する問題等

D I 値について

D I 値は、売上・採算・業況などの各項目についての、判断の状況を表す。ゼロを基準として、プラスの値で景気の上向き傾向を表す回答の割合が多いことを示し、マイナスの値で景気の下向き傾向を表す回答の割合が多いことを示す。したがって、売上高などの実数値の上昇率を示すものではなく、強気・弱気などの景気感の相対的な広がりを意味する。

D I = (増加・好転などの回答割合) - (減少・悪化などの回答割合)
業況・採算 : (好転) - (悪化) 売上 : (増加) - (減少)

日本商工会議所

本件担当：産業政策部 TEL: 0 3 - 3 2 8 3 - 7 8 4 3
E-Mail: sangyo@jcci.or.jp

なお、本調査結果は日商ホームページ(<http://www.jcci.or.jp>)でもご覧になれます。

【平成16年7月調査結果のポイント】

業況DIは3カ月ぶりにマイナス幅が縮小し、改善の動きが広がる

7月の景況をみると、全産業合計の業況DI（前年同月比ベース、以下同じ）は、前月水準（31.1）よりマイナス幅が5.4ポイント縮小して25.7となり、3カ月ぶりにマイナス幅が縮小した。

業種別の業況DIは、卸売を除く4業種でマイナス幅が縮小したため、全産業合計の業況DIもマイナス幅が縮小した。製造業を中心に業況は好調との声や、猛暑の影響により夏物商品が売上増といった声の一方、中小企業の足元の業種間、企業間の格差は大きい。景気の先行きについても、回復に期待するとの声の一方、依然として消費の低迷や、公共事業の縮小、素材価格の高騰による仕入コストの上昇などの不安材料を訴える声が寄せられている。

【建設業】では、「季節物のエアコン取付工事がピークに達している」（電気工事）との声はあるものの、「工事単価は下がっているが、資材価格は値上がり」（一般工事）と、仕入コスト上昇を訴える声や、「公共工事は相変わらず低迷し、民間工事は競争激化」（一般工事）と、引き続き厳しい状況を訴える声が寄せられている。

【製造業】では、「売上、採算とも好調で、先行きの見通しも良く、資金的に若干余裕のある事業所も出てきており、設備投資の話もある」（金属加工機械）といった声の一方、「残業しても受注残を抱える状況で、本来は人員を増やしたいところだが、先行き不透明で踏み切れないため外注で対処している」（輸送用機械部品）と、先行きに慎重な見方のほか、「素材価格の高騰とともに一部素材の不足が生じているが、価格転嫁は進んでいない」（金物類）と、仕入コスト上昇を訴える声が寄せられている。

【卸売業】では、「猛暑によりジュース等、清涼飲料関係の需要が良好」（食料、飲料）といった声はあるものの、「催事販売も全般的に低調で、依然として需要の見通しは厳しい」（衣服、日用品）、「中小卸売業の倒産が増加し、少量仕入の地方の小売店は仕入が困難になってきている」（各種商品）と、厳しい状況を訴える声が寄せられている。

【小売業】では、「今月はボーナスの影響で、商店街全体で売れ行きは良い」（商店街）との声や、「夏物衣料の売上が大幅に伸び、食品も飲料、アイス、デザート類を中心に伸びている」（百貨店）、「飲料とエアコンの売上が好調」（百貨店）と、猛暑が好影響したとの声が寄せられる一方、「中元商戦もたけなわだが、昨年並みにいけば良い状況」（百貨店）と、依然として消費の低迷を訴える声も寄せられている。

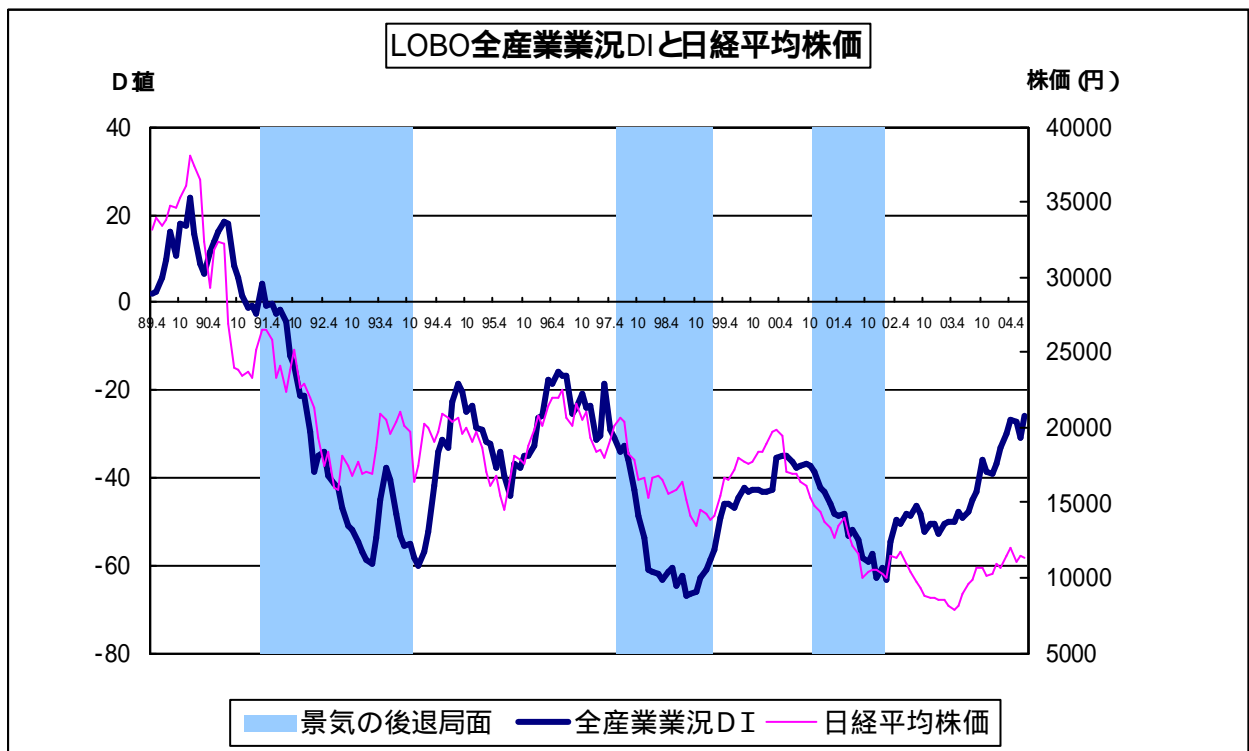
【サービス業】では、「猛暑によりアイスコーヒー、デザート等が好調で、売上が前年同月比約10%増加」（喫茶店）との声や、「客の来店サイクルの回復等で、ようやく景気の下げ止まり感が見られるようになった」（理容）といった声の一方、「大手・リゾートホテルは好調だが、中小ホテルでは客数、客単価とも減少している」（旅館）、「荷動き数量は前年同月比で大幅に減少しており、下げ止まる様子は見られない」（倉庫）と、企業間格差や、依然として需要の減少を訴える声が寄せられている。

売上面では、DI値のマイナス幅は建設を除く4業種で縮小したため、全産業合計の売上DIは7.8ポイント縮小して20.2となり、2カ月ぶりにマイナス幅が縮小した。

採算面では、DI値のマイナス幅は全業種で縮小したため、全産業合計の採算DIは3.5ポイント縮小して26.2となり、3カ月ぶりにマイナス幅が縮小した。

向こう3カ月(8月~10月)の先行き見通しについては、全産業合計の業況DI(今月比ベース)が20.1と、昨年同時期の先行き見通し(37.7)と比べて改善している。

景気に関する声、当面する問題としては、製造業を中心に業況は好調との声や、猛暑の影響により売上増といった声の一方、公共事業の縮小や消費の低迷などを訴えるコメントが依然として寄せられており、素材価格の高騰による仕入コストの上昇に関するコメントも多く見られた。



【業況についての判断】

7月の景況をみると、全産業合計の業況DI（前年同月比ベース、以下同じ）は、前月水準（ 31.1 ）よりマイナス幅が5.4ポイント縮小して 25.7となり、3カ月ぶりにマイナス幅が縮小した。

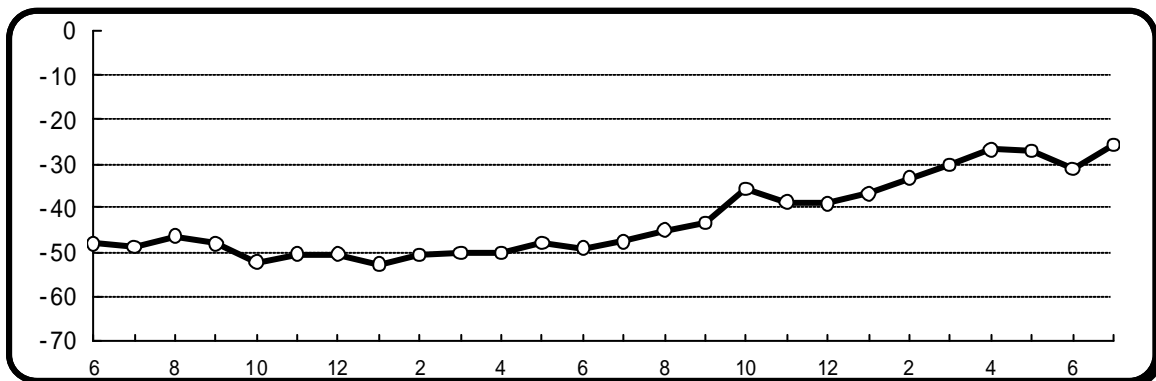
向こう3カ月（8月～10月）の先行き見通しについては、全産業合計の業況DI（今月比ベース）が 20.1と、昨年同時期の先行き見通し（ 37.7 ）に比べて改善している。

業況DI（前年同月比）の推移

	16年 2月	3月	4月	5月	6月	7月	先行き見通し 8～10月
全産業	33.3	30.2	26.8	27.1	31.1	25.7	20.1 (37.7)
建設	55.5	54.8	50.4	49.1	55.0	49.1	38.1 (52.9)
製造	18.1	14.9	14.6	9.1	17.8	8.5	12.1 (32.1)
卸売	30.4	31.3	26.8	29.6	26.4	28.0	16.6 (33.9)
小売	36.0	31.7	27.7	35.3	35.9	30.0	20.7 (36.8)
サービス	32.9	27.9	23.4	21.2	25.0	22.2	17.0 (36.2)

「先行き見通し」は当月に比した向こう3カ月の先行き見通しDI
()内は昨年7月の先行き見通しDI <以下同じ>

《業況DI（全産業・前年同月比）の推移》



【売上（受注・出荷）の状況についての判断】

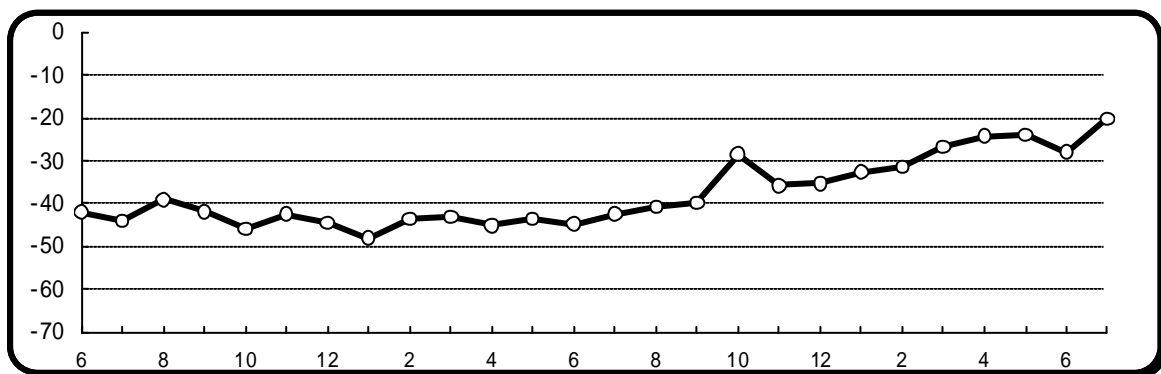
売上面では、D I 値のマイナス幅は建設を除く4業種で縮小したため、全産業合計の売上D I は7.8ポイント縮小して 20.2 となり、2カ月ぶりにマイナス幅が縮小した。

向こう3カ月(8月～10月)の先行き見通しについては、全産業合計の売上D I (今月比ベース)が 16.1 と、昨年同時期の先行き見通し(32.0)に比べて改善している。

売上（受注・出荷）D I（前年同月比）の推移

	16年 2月	3月	4月	5月	6月	7月	先行き見通し 8～10月
全産業	31.5	26.7	24.3	23.9	28.0	20.2	16.1 (32.0)
建設	46.4	49.3	46.7	41.5	42.1	44.6	30.1 (45.1)
製造	11.1	12.8	3.3	0.9	7.8	0.4	7.2 (25.2)
卸売	36.3	24.1	26.8	27.7	30.1	20.1	10.4 (31.5)
小売	35.9	30.0	29.5	36.7	38.3	25.8	18.4 (33.9)
サービス	36.2	23.3	24.8	22.2	26.9	19.1	15.9 (28.6)

《売上（受注・出荷）D I（全産業・前年同月比）の推移》



【採算の状況についての判断】

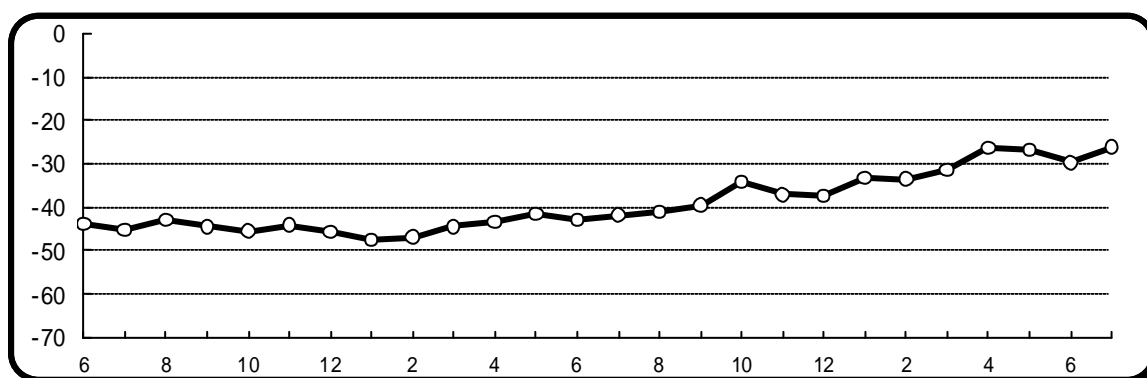
採算面では、D I 値のマイナス幅は全業種で縮小したため、全産業合計の採算D I は3.5ポイント縮小して 26.2 となり、3 カ月ぶりにマイナス幅が縮小した。

向こう3 カ月(8月～10月)の先行き見通しについては、全産業合計の採算D I (今月比ベース)が 20.8 と、昨年同時期の先行き見通し(34.1)に比べて改善している。

採算D I (前年同月比)の推移

	16年 2月	3月	4月	5月	6月	7月	先行き見通し 8～10月
全産業	33.6	31.4	26.3	26.9	29.7	26.2	20.8 (34.1)
建設	52.9	52.7	49.4	49.1	52.9	52.1	39.4 (53.2)
製造	24.3	24.9	17.6	15.0	21.9	17.1	19.2 (30.6)
卸売	28.6	28.3	20.4	28.9	23.9	21.3	12.9 (32.7)
小売	30.4	27.2	22.9	27.5	28.1	22.8	16.0 (25.8)
サービス	36.7	30.4	26.8	23.6	26.7	24.7	19.0 (35.8)

《採算D I (全産業・前年同月比)の推移》



(参考)

資金繰りD I (前年同月比)の推移

	16年 2月	3月	4月	5月	6月	7月	先行き見通し 8~10月
全産業	26.7	26.5	21.1	21.6	22.8	20.5	19.2 (27.6)
建設	43.0	46.6	35.4	37.9	37.5	40.8	38.5 (46.4)
製造	22.5	21.9	21.0	14.8	18.6	14.7	13.4 (26.1)
卸売	23.9	22.6	19.2	23.3	23.1	14.2	13.7 (22.6)
小売	21.4	21.2	14.2	17.2	18.2	17.4	14.8 (20.0)
サービス	26.3	24.3	19.3	22.0	21.2	17.7	19.8 (27.6)

D I = (好転の回答割合) - (悪化の回答割合)

【前年同月比D I】建設を除く4業種で悪化超感が弱まったため、全産業合計でも3カ月ぶりに弱まる。

【先行き見通しD I】全業種で昨年同時期に比べて悪化超感が弱まり、全産業合計でも弱まる見通し。

仕入単価D I (前年同月比)の推移

	16年 2月	3月	4月	5月	6月	7月	先行き見通し 8~10月
全産業	9.7	10.8	13.3	14.7	15.9	15.1	12.7 (4.3)
建設	6.2	12.2	20.8	22.4	27.2	24.1	24.5 (2.9)
製造	23.9	26.2	30.3	30.0	31.9	32.1	23.6 (8.8)
卸売	6.6	10.3	9.6	9.4	9.3	12.3	11.1 (7.9)
小売	0.4	1.0	0.8	1.4	1.6	1.8	1.4 (0.6)
サービス	10.5	7.5	9.1	11.0	11.4	7.9	7.2 (4.9)

D I = (下落の回答割合) - (上昇の回答割合)

【前年同月比D I】製造、卸売、小売の3業種で上昇超感が強まったが、建設、サービスで弱まったため、全産業合計でも8カ月ぶりに弱まる。

【先行き見通しD I】全業種で昨年同時期に比べて上昇超感が強まり、全産業合計でも強まる見通し。

従業員 D I (前年同月比) の推移

	16年 2月	3月	4月	5月	6月	7月	先行き見通し 8～10月
全産業	10.0	8.0	7.6	8.6	7.5	6.2	7.5 (13.6)
建設	27.5	26.8	30.8	29.9	27.4	27.6	24.5 (26.6)
製造	9.1	6.0	9.2	5.3	6.0	3.6	7.5 (18.4)
卸売	9.6	11.4	10.8	11.9	10.4	6.7	4.9 (14.9)
小売	4.1	2.7	0.2	3.0	1.2	1.0	2.5 (7.3)
サービス	6.6	2.3	1.0	3.5	2.2	0.5	2.4 (6.4)

$$D I = (\text{不足の回答割合}) - (\text{過剰の回答割合})$$

【前年同月比 D I】建設を除く 4 業種で過剰超感が弱まり、全産業合計でも 2 カ月連続で弱まる。

【先行き見通し D I】全業種で昨年同時期に比べて過剰超感が弱まり、全産業合計でも弱まる見通し。

【平成16年7月の景気キーワード】

回復への動き

引き続き各業種から、業況の改善と先行きに期待する声が寄せられており、建設、製造からは「増改築が増加し、最近では業界として少し明るくなってきている」(唐津・建築工事)、「受注は安定し、設備投資の意欲も出てきている」(茅野・電子部品製造)、「全体的に順調で、特に自動車関連は良い」(豊橋・自動車、同附属品等)との声や、「下期はクリスマス商戦を中心に輸出が増加する見込み」(弘前・電子部品製造)と、先行きに期待する声が寄せられている。卸売、小売、サービスからも、「IT関連業種と機械卸は売上が伸びている」(下関・各種卸売)、「アテネ五輪に向け、液晶・プラズマテレビ、DVD、ホームシアター等、デジタル関連商品の消費が盛り上がり、猛暑によるエアコン需要、白物家電の買い替えが見られる」(京都・百貨店)、「営業努力しているところは業況の好転が見られる」(四日市・旅館)、「客足が戻ってきている」(西条・食堂、レストラン)といった声が寄せられている。

景況感格差

景気現状と見通しについて、改善の動きとの声の一方、明るい見通しを持たないとの声も依然多く、景況感の格差が広がっている。「国、県、市町村の公共事業予算の減少により収益状況、資金繰りとも悪化し、業況は非常に悪い」(米子・一般工事)、「中小製造業者では、売上好転との声と、依然厳しいとの声が半々」(草加・化学工業)、「売上高は前年同月比3%減で物価の下落傾向は変わらず、業況は一層悪化」(上野・農畜産水産物卸売)、「日帰りの観光客は増加しても、宿泊の増加にまではつながっていない」(福島・旅館)といった声が寄せられている。また、「原材料・石油価格の上昇が好況感に水を差している」(金沢・金属製品製造)、「BSE問題による国産牛肉の値上がりで採算悪化」(臼杵・ビアホール)と、引き続き各業種から仕入コストの上昇を訴える声が多く寄せられている。

猛暑の影響

各地から、全国的な猛暑の影響について、「エアコン関連が好調に推移している」(大津・計量器測定器等製造)、「浴衣の受注が好調」(半田・織物製造)、「ビール、清涼飲料水が好調な売れ行き」(伊那・百貨店)、「猛暑のせいかカット客が増加」(堺・美容)と、好影響があったとの声が多く寄せられている。一方、「あくまでも昨年の冷夏に対し夏物商品の動きが良かったため売上の前年比が増加しているのであり、全体の消費状況の好転とは言えない」(藤枝・百貨店)、「異常な暑さのため、客が冷房の効いた大型店へ出かけ、商店街の人出はさっぱり」(一宮・パン、菓子製造販売)、「秋・冬物の受注が例年の半分以下で、記録的な低迷」(泉大津・ニット、シャツ製造)といった声も寄せられている。

【景気キーワードの推移】

年	月	景気キーワード		
16年	5月	回復への動き	景況感格差	仕入コスト上昇
	6月	回復への動き	景況感格差	仕入コスト上昇
	7月	回復への動き	景況感格差	猛暑の影響

景気キーワードは、調査対象組合の各月におけるトピック・関心事項などに関しての自由回答をまとめたもの。

【産業別概況】

産 業	概 況
建 設	業況、採算D Iは2カ月ぶりにマイナス幅が縮小し、売上D Iは2カ月連続で拡大した。「季節物のエアコン取付工事がピークに達している」(電気工事)との声はあるものの、「これから少しは工事が増えてくると思うが、材料費値上げの動きもあり、どれだけ利益をあげられるか不安」(一般工事)、「工事単価は下がっているが、資材価格は値上がり」(一般工事)と、仕入コスト上昇を訴える声や、「全体の仕事量が少なく、大型工事があっても地元業者には無関係のため、厳しい状況が続いている」(建築工事)、「公共工事は相変わらず低迷し、民間工事は競争激化」(一般工事)と、引き続き厳しい状況を訴える声が寄せられている。
製 造	業況、売上、採算D Iとも2カ月ぶりにマイナス幅が縮小した。「売上、採算とも好調で、先行きの見通しも良く、資金的に若干余裕のある事業所も出てきており、設備投資の話もある」(金属加工機械)といった声の一方、「残業しても受注残を抱える状況で、本来は人員を増やしたいところだが、先行き不透明で踏み切れないため外注で対処している」(輸送用機械部品)と、先行きに慎重な見方のほか、「輸入品など安い製品に顧客をとられ、予想以上に悪い状態」(製紙)との声や、「素材価格の高騰とともに一部素材の不足が生じているが、価格転嫁は進んでいない」(金物類)、「原料大豆の不作により採算悪化」(食品)と、仕入コスト上昇を訴える声が寄せられている。
卸 売	業況D Iは2カ月ぶりにマイナス幅が拡大し、売上D Iは4カ月ぶり、採算D Iは2カ月連続で縮小した。猛暑により、「ジュース等、清涼飲料関係の需要が良好」(食料、飲料)、「空調機器の売上が増加」(衣服、日用品等)といった声はあるものの、「売上は前年同月比6%減少し、お盆までは少しはよくなると思うが、その先はあまり期待できない」(食料、飲料)、「催事販売も全般的に低調で、依然として需要の見通しは厳しい」(衣服、日用品)、「中小卸売業の倒産が増加し、少量仕入の地方の小売店は、仕入が困難になってきている」(各種商品)と、厳しい状況を訴える声が寄せられている。
小 売	業況、売上、採算D Iとも3カ月ぶりにマイナス幅が縮小した。「今月はボーナスの影響で、商店街全体で売れ行きは良い」(商店街)、「各業界に少しずつ明るさが出てきた感じで、夏が終わる頃には結果が出てくると思われる」(各種商品小売)との声や、「夏物衣料の売上が大幅に伸び、食品も飲料、アイス、デザート類を中心に伸びている」(百貨店)、「飲料とエアコンの売上が好調」(百貨店)と、猛暑が好影響したとの声が多く寄せられる一方、「中元商戦もたけなわだが、昨年並みにいけば良い状況」(百貨店)、「物販、飲食店とも売上は前年同月比マイナスで、景気の回復は一向に見えない」(商店街)と、依然として消費の低迷を訴える声も寄せられている。
サービス	業況、売上、採算D Iとも2カ月ぶりにマイナス幅が縮小した。猛暑により、「アイスコーヒー、デザート等が好調で、売上が前年同月比約10%増加」(喫茶店)、「昨年は冷夏で売上が伸び悩んだが今年は上々で、このまま夏らしい天候が続くことを祈る」(一般飲食店)との声のほか、「客の来店サイクルの回復等で、ようやく景気の下げ止まり感が見られるようになった」(理容)といった声の一方、「大手・リゾートホテルは好調だが、中小ホテルでは客数、客単価とも減少している」(旅館)、「荷動き数量は前年同月比で大幅に減少しており、下げ止まる様子は見られない」(倉庫)と、企業間格差や、依然として需要の減少を訴える声が寄せられている。

(参考)

【ブロック別概況】

ブロック別の業況D I (前年同月比ベース)は、全ブロックでマイナス幅が縮小したため、全ブロック合計でも3カ月ぶりに縮小した。

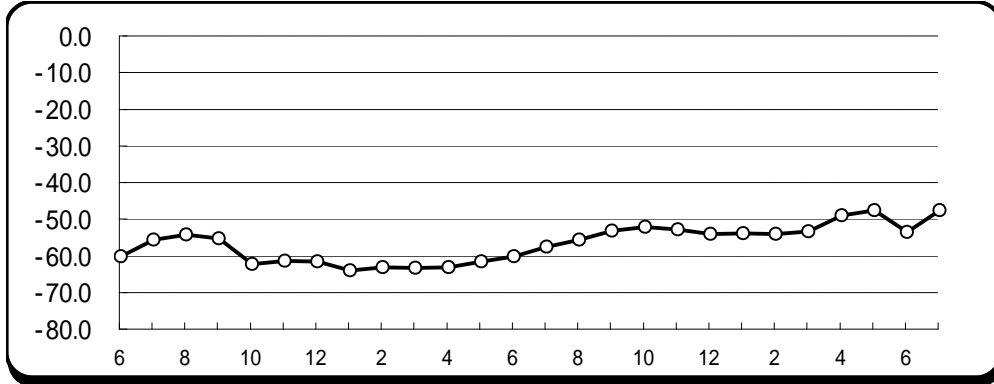
ブロック別の向こう3カ月(8月~10月)の業況の先行き見通しは、全ブロックで昨年同時期と比べて改善している。

ブロック別・全産業業況D I (前年同月比)の推移

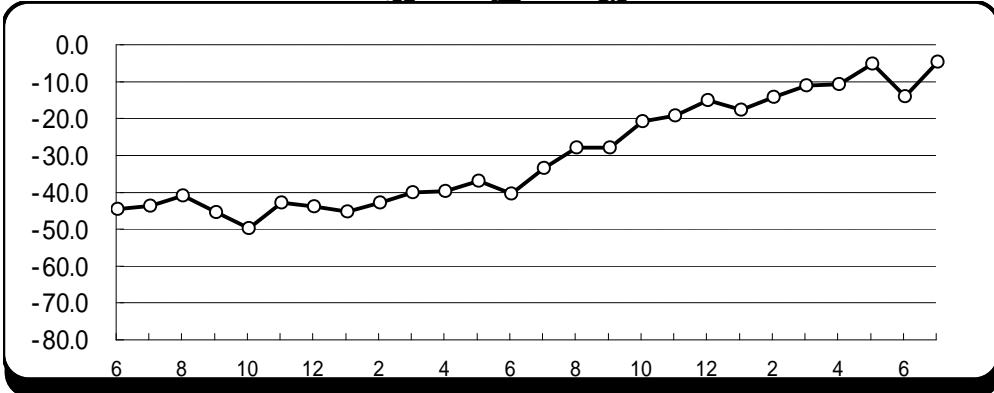
	16年 2月	3月	4月	5月	6月	7月	先行き見通し 8~10月
全 国	33.3	30.2	26.8	27.1	31.1	25.7	20.1 (37.7)
北海道	30.1	36.2	23.4	28.0	31.8	28.7	23.8 (37.5)
東 北	36.7	33.5	36.7	33.1	36.0	31.1	23.8 (40.1)
北陸信越	28.3	24.6	28.5	25.3	27.5	27.4	25.3 (33.0)
関 東	28.5	27.5	20.6	23.8	29.0	22.1	13.3 (35.2)
東 海	27.7	31.6	27.1	23.0	28.0	18.8	14.4 (42.5)
近 畿	39.2	32.4	30.4	27.5	29.2	28.2	28.9 (36.3)
中 国	38.2	33.3	26.4	31.3	34.6	26.7	25.3 (38.2)
四 国	48.6	39.8	32.2	30.0	38.7	31.7	17.5 (42.5)
九 州	31.6	22.9	24.3	29.3	32.1	23.3	14.9 (40.8)

業況D I（前年同月比）の推移（全国）

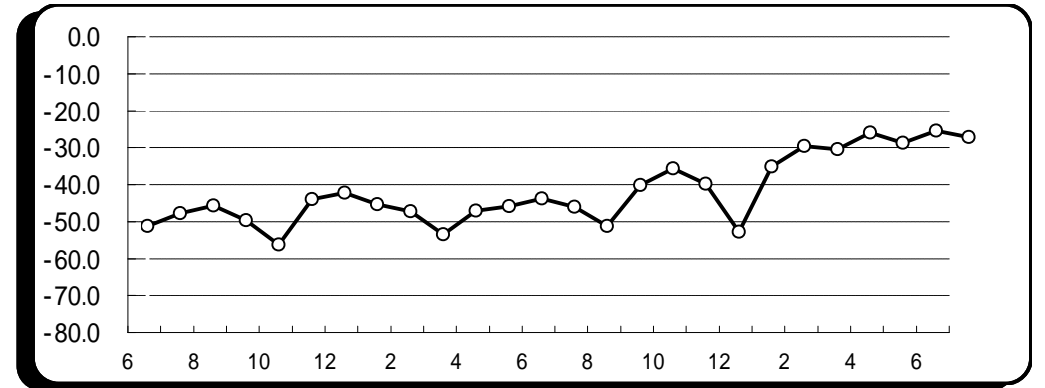
建設業



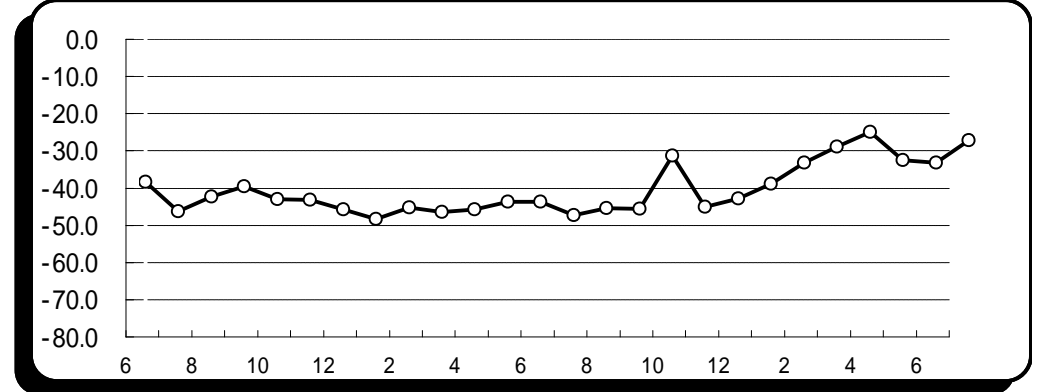
製造業



卸売業



小売業



サービス業

